



条幅規定

師範正 野中 静波

運腕大きく、落筆も高く筆が自在に舞い、生命感豊かな線が織りなす筆捌きは流石師範正の作である。潤濁、大小、気脈、構築性も自然体で余白も美しく魅力十分な作品である。野中ワールドに期待している。

条幅随意(臨書)

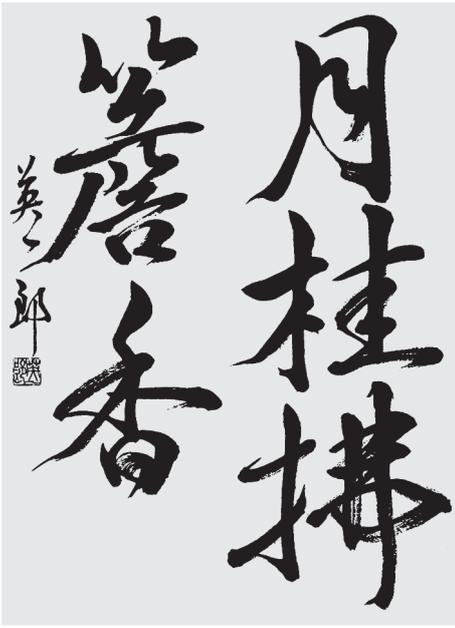
成家 志岐 陽華

深く潤いのある線で、存在感豊かに伸び伸びと臨書されているが、左綴叙にしては少し線が強く単調に見える。文字の懐の余白、線の強弱、横画の右上がりにも注意。原帖のイメージも大切にしよう。

条幅随意

師範正 鹿毛 純光

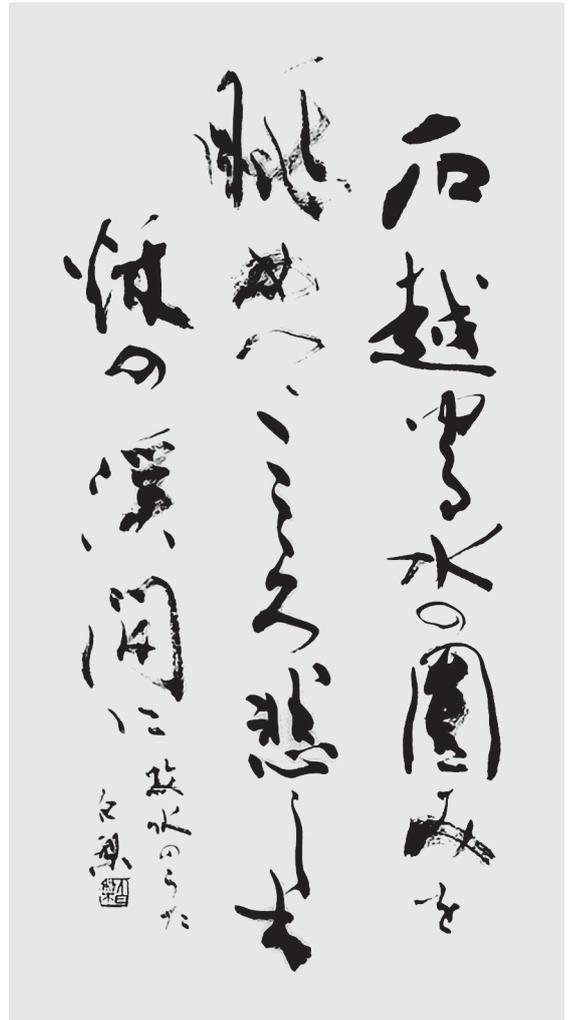
日頃の豪快な作品とは打って変わって、仮名の散文構成を思わせる余白の美しい作品である。大字で培ったリズムに乗った手慣れた筆捌きが、詩情を豊かに感じさせてくれる。



半紙規定

師範 佐田英一郎

手本に捉われることなく思い切りのよい正確な筆捌きとリズムに乗った筆勢、迷いのない澄んだ線に魅力を感じる。字書を友とし、自己の書風の確立に努めてほしい。



半紙随意

師範 鈴木 鶴聲

筆が淀みなく動き、自然な潤いの変化と文字の大小の調和、動きのある構成など貫通する気脈も見事。また、紙面を流れる明るく柔らかな空気が心地よい。秋の気配さえ感じる。



半折1/2縦

師範正 池田 白梨

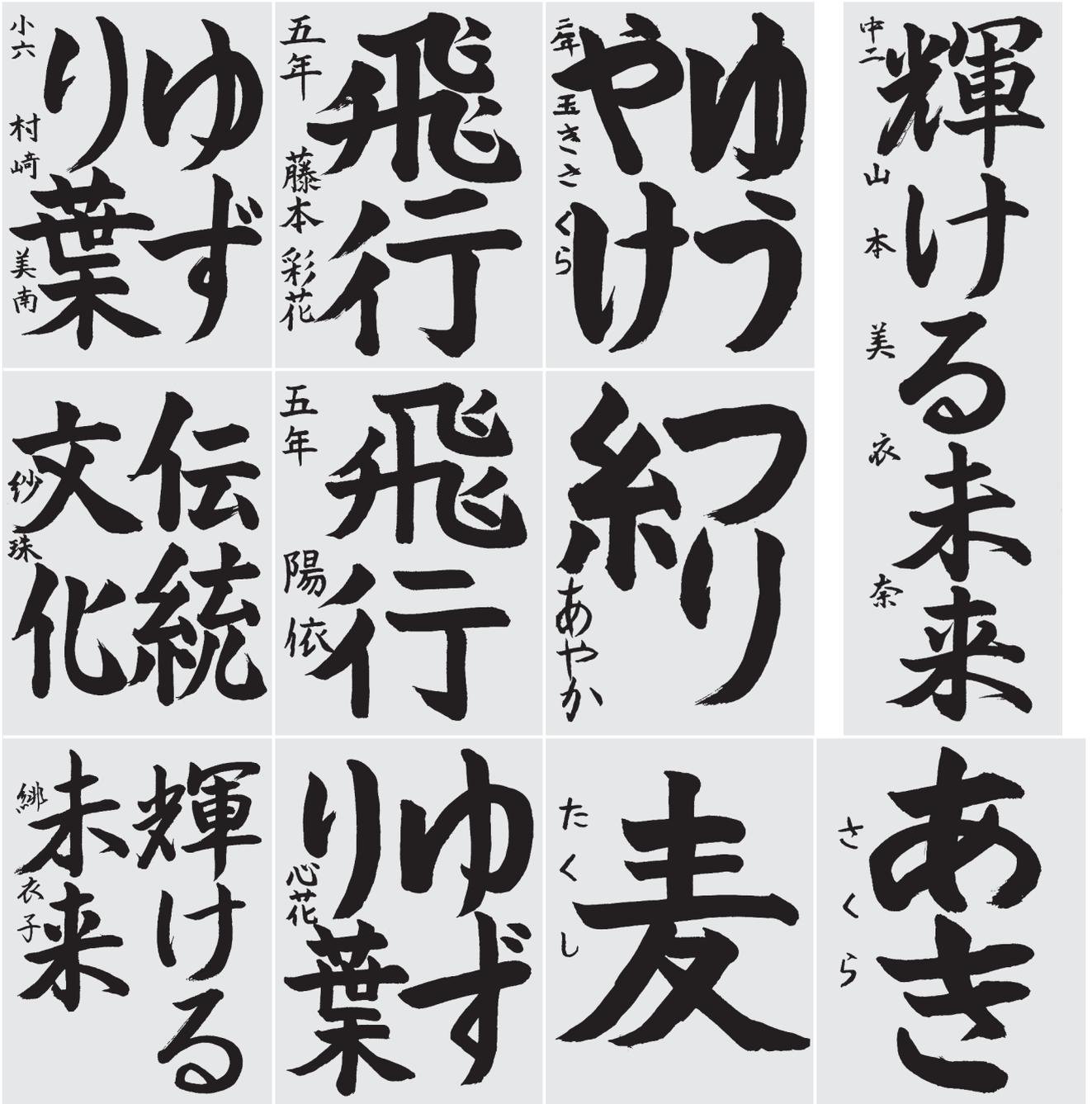
ごく自然の構成で、潤い、文字の大小、行の響き合いなどを意識し、作品づくりに長けた作品である。多くを見せる事なく、自然体を貫いている章法は流石で、内面から光る何かを感じる。



半紙随意(臨書)

師範正 藤 秀月

原帖をよく観察し、筆圧の變化、点画の流れを意識し、メリハリをつけて暢やかに書いている。程よい緊張感を漂わせ、真面目な臨書への取り組みが窺われる。



学生部条幅 (1/4)

中二 特待生 山本美衣奈  
すっかりとした筆使いで、漢字と平仮名のバランスが良く、明るく書けています。さすが特待生の作品です。勉強や部活との両立、見事です。

伊東さくら 小一 準6級  
むずかしいもじでしたが、お手本をよくみてとてもじょうずにかけています。このちようしでこれからもがんばってね。

玉置 桜 小二 2級  
半紙いっぱいになさくらさんの元気があふれ、見ていると元気に なります。おけいこの楽しさが つたわりっぱな さくらひんです。

大園 拓志 小四 二級  
むずかしい課題でしたが、お手本をよく見て形よく、しっかりと書けています。名前の練習に力を入れるとさらに良くなります。

藤本 彩花 小五 五段  
力強い線で、堂々と書けましたね。名前もとても上手です。さらに上の段位を目指してこれからはがんばって ください。

竹原 心花 小六 六段  
漢字と平仮名のバランスが難しい課題でしたが、さすが上位有段者の作品です。さらに上を目指し、今後がんばって下さい。

高木 陽依 小五 準三段  
お手本をよく見て、丁寧な筆使いで形よく書けています。筆を軽く握って腕全体で書くと伸びやかさが増すと思います。

今富 紗珠 中一 準特待生  
気のこもった強い線で堂々と書けています。筆をもう少し軽く握り、腕全体で書くと更に良くなると思います。頑張ってください。

村崎 美南 小六 準六段  
明るく澄んだ線でも伸びやかに書けています。名前までの完成度が見事です。美南さんの今後の成長に期待しています。

藏永緋衣子 中二・三 特待生  
お手本をよく見て、バランス良く、明るく書けています。さすが特待生の作品です。一般部への挑戦、期待しています。

# 硬筆部最優秀作品

(10月末日締切分)

(坂元紫香先生評)

手を つないで、  
「天まで」ととけ  
一、二、三、と  
ジャンプしました。  
ジャーンが あいる

ぼくは、きみが  
ぼくの親友である  
ことを、うれしく  
思っています。  
二年 渡辺 斗愛

お父さんは、白いたすき  
をかたからななめにか  
け、日の丸のはたに送ら  
れて、列車に乗りまし  
た。  
木村 妃那

うなぎは、ごんの首にまき  
付いたままはなれません。  
ごんはそのまま横つ飛び  
に飛び出してにげました。  
黒岩 佳歩

うなぎは、ごんの首にまき  
付いたままはなれません。  
ごんはそのまま横つ飛び  
に飛び出してにげました。  
原田 慧衣

わたしたちは、聞き手や、会話  
の中に出てくる人などに対し  
て敬意を表すために、必要に応  
じて、いねいな言葉づかいを  
します。これを敬語とい  
います。  
藤井 夏希

わたしたちは、聞き手や、会話  
の中に出てくる人などに対し  
て敬意を表すために、必要に応  
じて、いねいな言葉づかいを  
します。これを敬語とい  
います。  
金石みのり

私たちが使っている言葉は昔の  
言葉をもとにしながらも、時代の  
流れの中で、人々の生活や考え  
方など、さまざまに変え、よ  
うを受けて変わってきたもの  
なのです。  
吉原 煌

強くにおう、乾いた荒野の焼  
けつ、くような昼下がり、庭  
の中の涼しい朝、神秘的な森  
の外れの夕方、僕は、はま  
るで宝を探す人のように、網  
を持って待ち伏せていたもの  
だ。  
五反田 桜花

強くにおう、乾いた荒野の焼  
けつ、くような昼下がり、庭  
の中の涼しい朝、神秘的な森  
の外れの夕方、僕は、はま  
るで宝を探す人のように、網  
を持って待ち伏せていたもの  
だ。  
大嶋 颯太

拝啓 清秋の候、お変わりなくお過  
しめと存じます。  
さて、老父のこゝ、来る十月五日の誕生日もそ  
と、七十七歳となり、さややかながら、長寿の祝いを  
祈願いたします。当日七時より、粗餐を差し上げ  
たく、都合の許すかぎり、出席賜わり、お  
持ち申しと存じます。  
末筆ながら、ご一同様にくれぐれも、よろしく  
お伝えください。  
陽子

大阪万博の会場で、小学生だった私は  
太陽の塔に心を射抜かれた。周囲の  
近未来的な雰囲気はない。大きさも  
規格外れて、屋根を突き破る。一瞬、失  
敗作かと思ったほどの異形だった。  
中村 浩子

古賀 あいる 小一 7級  
渡辺 斗愛 小二 準2級  
木村 妃那 小三 2級  
黒岩 佳歩 小四 四段  
原田 慧衣 小四 準三段  
藤井 夏希 小五 五段

黒岩 佳歩 小四 四段  
原田 慧衣 小四 準三段  
藤井 夏希 小五 五段  
金石みのり 小五 準三段  
吉原 煌 小六 準六段  
五反田桜花 中学 特待生

大嶋 颯太 中学 準特待生  
権藤 陽子 一般 師範正  
中村 浩子 一般 師範正

大嶋 颯太 中学 準特待生  
権藤 陽子 一般 師範正  
中村 浩子 一般 師範正